

授業科目 臨床化学 II

【担当教員名】 土屋 康雄		対象学年	2	対象学科	臨床
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：GI0】 各種疾患の診断や予後の判定などに必要な情報を提供するために、生体試料中に含まれる成分の測定方法や結果の解釈を理解し、生物化学的分析の理論と実際を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
1 臨床化学検査における基本的な項目の分析方法を説明する。					
2 検査値の臨床的意義を説明する。					
3 機能検査の方法や結果の解釈について説明する。					
4 臓器別に機能評価の方法とその病態について簡単に説明する。					
5 検査結果の解析・評価が疾患別に説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	酵素の臨床的意義			1-2	講義
2	酵素；アミノトランスフェラーゼ			1-2	講義
3	酵素；乳酸脱水素酵素、クレアチンキナーゼ			1-2	講義
4	酵素；アルカリフォスファターゼ、γグルタミルトランスフェラーゼ			1-2	講義
5	酵素；コリンエステラーゼ、アミラーゼ			1-2	講義
6	微量元素；鉄、銅ほか			1-2	講義
7	ホルモン、血中薬物			1-2	講義
8	動的機能検査法			3	講義
9	臓器別機能評価と病態—肝胆道、消化器			4	講義
10	" 一心・循環器機能、腎機能			4	講義
11	" 一内分泌、酸・塩基平衡			4	講義
12	" 一骨代謝機能、炎症			4	講義
13	" 一腫瘍マーカー、栄養状態			4	講義
14	" 一薬物モニタリング			4	講義
15	検査結果の解釈・評価			5	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床化学	前川真人 編集	医学書院	2012・4,500円＋税
参考書		異常値の出るメカニズム	河合 忠ほか	医学書院	2008・6,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】 小テスト (20%)、定期試験 (80%)			【履修上の留意点】 疾病と検査値の関わりを学ぶので項目毎に異常値の出るメカニズムを予習して臨むこと。		